

古
88

二申 逐日寒冽の自愛
專一奉祈也

寒歳日々相加り甚處

逾健勝為國家幸甚祝を

木下の生 義信猶榮儀

少頃新性神経痛甚められ

醫者の勸告依り大森轉地

病に成貴族院議事相始

未のり付未、全復に至る

毛歸堂政も餘り以望海防

任付速昇堂以院中上

木下小生 義情痛筆後

才俊新性神任痛甚められ

醫^司の勸告依り大森轉地

病^に戻貴族院議事相始

まありれ付未^く全復^{に至}らる

毛歸^空返^しも餘^り以^て海^防

任^り付連^て昇堂^り院^に中上

病^に復^前迷^て状態尚^も醫

の戒告^も有^り不^も意^多お

且^も敬^しむ^を一^も合^智

復^の多^少決^し右^の事情^に

断^り申上^置向^て恐^り豫

恕^を示^す相^願武^富氏^甚迷

の豫^算并^に詳^解早^速講

續^大益^を得^申貴^族

院^に方^未重^要の^問題^に

出^です^を孰^も其^中多^題

可^得の^話是^れ餘^り聞^神

所^り申上置^る向^て惡^の豫
怒^る不^は相^願を^も武^富氏^甚達
の豫^算并^譯解^の早^速講
讀^大の益^を得^申を^貴族
院^の方^未が^重要^の問^題也
出^です^る既^に其^中各^題
可^得の^話是^餘の^問題^に
罷^過り^付茲^に捧^上楮^也

一月廿四日 頓首 拝

直林

大隈仁克先生研北